

草地の雑草対策

実態を把握する

病院で打っている問診のように、草地の雑草対策にも実態把握が必要です。「よく生え揃っているかに見えた新播草地が、近寄って見たら一面ノビユだった」、という例もあります。

そこで、実態把握に必要な項目を図1にあげてみました。

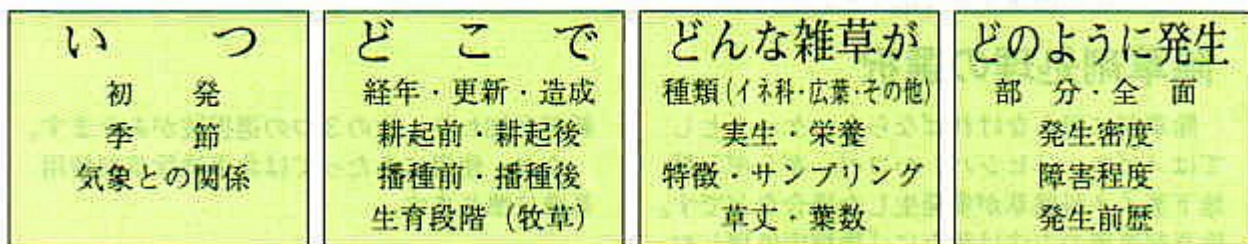


図1. 雑草の実態把握に必要な項目

防除対策を検討する

草地土壌には多くの雑草種子が含まれており、その発生生態も多様です。例えば、ギシギシ類は根茎と種子によって増殖し、土壌中の種子は長年にわたり発芽能力を持っています。このような雑草の逞しさを考えると、種子の循環を断つことを含めた総合的な防除対策が必要です。

そこで、雑草防除対策の模式図を図2に示しました。

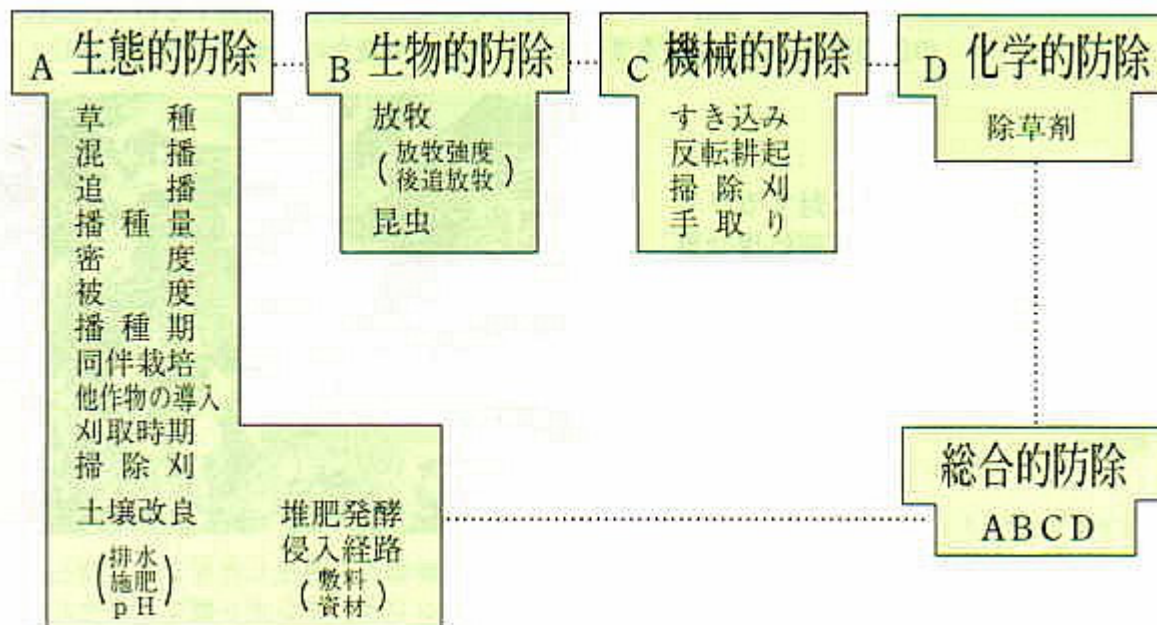


図2. 雑草防除対策の模式図

耕種的な対策

◎掃除刈り

雑草の生長点の位置によって効果が分かります。例えば、シロザ、タデ類、タギタナコウジュなどに対しては効果が高いのですが、ノビユ、メヒシバなど生長点が低い位置

にある雑草に対しては効果が劣ります。一般に掃除刈りの時期は播種後40～60日、雑草の草丈が20～30cm位になった頃に刈取ります。

◎鋤込み

通常の耕起・整地のあと雑草の発生を待ち2度目のロータリーハロー掛けで雑草を鋤込み、その後に播種する方法です。

◎草種

ペレニアルライグラスのように初期生育が良く、再生・分けつ力が優る草種では、それらの特性を活かすことにより、雑草に打ち勝つ生育をします。

◎同伴栽培

牧草と麦類やえん麦を同伴栽培することにより、雑草を抑制し初回刈り収量を高めることができます。

除草剤処理の選択

除草剤に頼らなければならないケースとしてはノビユ、メヒシバ、ハコベ、ギシギシ類、地下茎イネ科雑草が多発生した場合などです。除草剤処理の方法は新たに「播種床処理」や新剤が加わり、次の3つの選択肢があります。

なお、使用にあたっては北海道除草剤使用基準に準じます。

- ①前植生処理：耕起前にギシギシ類、シバムギ、リードカナリーグラスなどの茎葉と根を枯殺する目的で処理します。ただし、雑草種子に対しては作用しません。
- ②播種前処理：埋土種子の実生発芽と再生株植物に効果的です。「播種床雑草のクリーニング」というべきもので播種床造成後、雑草が生え揃うのを待って処理します。したがって、そのタイミングが重要です（写真1）。ただし、リードカナリーグラスに対しては①の前植生処理が効果的です。（表1）。
- ③生育期処理：ギシギシ類除草剤に新たに「DPX-16顆粒水和剤」が加わりました。この剤はイネ科牧草単播、アルファルファ単播、両者の混播草地に使用でき（アルファルファは経年草地の使用に限る）、夏処理が可能です。ただし、シロクローバ、アカクローバに対しては生育を著しく阻害するので、これらの混播草地には使用できません。使用量が少量なので慎重に処方しましょう。



写真1. 断根から再生したギシギシ類と実生シロザ、ギシギシ類などが生え揃った、播種前処理の適期

表1. 既客土泥炭草地に対するグリホサード液剤の除草剤処理効果
(天北農試：1996年)

主たる雑草	耕起前	耕起後
広葉雑草	×	○
リードカナリーグラス	○	□

注) 処理効果、○：中 □：小 ×：なし